

臨床 検査技師

Medical Technologist

病気の診断、治療、予防のための 検査データを提供し、診療に貢献する



OB VOICE

実務経験と研究を通して
医療の発展に
貢献したいと考えています

微生物検査を主に担当しています。血液や尿、喀痰などの検体から感染症の原因となる微生物の同定・薬剤感受性試験を行い、患者様への適切な抗菌薬投与へと繋げていきます。新型コロナウイルスやインフルエンザの検査なども行います。多くの検査で機械化が進むなか、微生物検査は手技が多く、知識や経験が検査に直結するため大変やりがいを感じます。臨床検査技師は専門性を高めることで、医療に欠かせない人材へと成長できます。今後は大学院で研究を行い、医療界の発展へ尽力したいと考えています。



川原 健太郎さん
長崎大学病院 勤務
福岡保健医療学部
医学検査学科 卒業

どうすればなれる？

臨床検査技師国家試験に合格することが必要です。

受験資格を得るには…

臨床検査に関わる大学(4年)、短期大学(3年)、専門学校(3~4年)を修業・卒業する。

高校卒業

臨床検査技師指定養成施設
大学・短大・専門学校
(4年・3年)

臨床検査技師
国家試験合格

臨床検査技師

どんな仕事？

病気や健康状態を科学的に把握

病気の診断、治療の経過・健康状態を把握するために、血液や組織片などの検体を検査・分析します。さらに、脳波検査・心電図検査・超音波検査・MRI検査など患者さんと接する検査のほか、個人の遺伝情報をもとに、一人ひとりに応じた治療を行うゲノム医療に必須となる遺伝子検査も担います。

どこで働く？

医療機関はもちろん、
医薬関連企業の研究職など選択肢は多い

病院

保健所・保健センター

検査センター

警察の科学捜査部門

治験・製薬・食品・医療機器関連企業

など

仕事の展開と将来の展望

専門分野でのスキルアップの道も

病院勤務や、臨床検査を請け負う検査センター、企業など、専門知識を生かせる場が広いのが特長です。さらに、臨床検査技師の資格取得後、がんの発見や診断のため細胞を採取して調べる「細胞検査士」や、超音波検査で体表臓器・循環器・消化器・泌尿器・産婦人科・健診・血管の領域別に認定を受ける「超音波検査士」といった認定資格が数多くあり、専門分野でスキルアップする道が開かれています。